



エスティ ローダー カンパニーズ  
シニア コーポレート ヴァイス プレジデント兼フラグランス国際開発責任者  
乳がん研究基金設立者

## エヴリン・H. ローダー 永眠

ニューヨーク・エスティ ローダー カンパニーズ(ELC)は、2011年11月12日、同社シニア コーポレート ヴァイス プレジデントで、フラグランス国際開発責任者であるエヴリン・H. ローダー(享年 75 歳)が、ニューヨーク市の自宅で愛する家族に見守られて永遠の眠りについたことを発表いたしました。死因は、卵巣がんによる合併症でした。

ミセス エヴリン ローダーが天国に召されたとき、傍らには、エスティ ローダー カンパニーズの名誉会長である夫のレナード・A.ローダー、息子でエスティ ローダー カンパニーズの会長を務めるウィリアム・ローダー、同じく息子でローダー パートナーズのマネージング ディレクターを務めるゲイリー、ゲイリーの妻でローダー パートナーズのゼネラル パートナーを務めるローラ、そして5人の孫たちが見守っていました。

「母は、エスティ ローダー カンパニーズの伝統と価値という聖火を、祖母の故ミセス エスティ ローダーから受け継いでくれた偉大な存在です。父と母は、生涯の伴侶であるとともに、素晴らしいビジネスパートナーでした。エスティ ローダー カンパニーズの文化を育て、私たちをここまで導いてくれたのは両親です。そして私たちが成長してからは、母が私たちの創造性のコンパスであり、心の支えでした。家族も会社も、彼女の輝かしい生涯を心から尊敬しています」と、息子のウィリアムは語りました。

また、エスティ ローダー社を代表してプレジデント兼最高経営責任者(CEO)のファブリツィオ・フリーダが、次のように哀悼の辞を述べました。「ミセス エヴリン ローダーは、エスティ ローダー カンパニーズの心と魂を体現している人でした。

彼女は、私たちのビジョン、価値、文化の偉大な創造主でした。ダイナミックで、クリエイティブで、聡明で、本当に温かくて、寛容で、人と人とのつながりを構築できる天性の才能を持ち合わせていました。彼女の情熱は、そのまわりにいる人にも伝わり、すべての人を幸福に導いたのです」

ミセス エヴリン ローダーの生涯は、アメリカのサクセスストーリーを絵に描いたようなものだったといえるでしょう。オーストリアのウィーンに生まれた彼女は、両親に連れられ、ナチス占領時代にヨーロッパを脱出しニューヨークにたどり着きました。ニューヨークの港に着いたとき、船の中で眠っていた彼女は母親に起こされ、自由の女神像を目にしたといいます。幼かったミセス エヴリン ローダーは、そのときの感動を鮮明に覚えており、「これが、これから先の自分の人生の希望のシンボルになる、と感じた」と回想していました。

ミセス エヴリン ローダーは、ニューヨーク市のパブリックスクールに通い、優秀な成績で卒業。その後、ニューヨーク市立大学ハンター校に進学し、卒業したことを大変誇りにしていました。大学卒業後は、ニューヨーク市でパブリックスクールの教師を数年間務めていました。

大学一年のとき、彼女はレナード・A.ローダーと出会いました。家族で小さな化粧品会社を営むエステ&ジョセフ・ローダー夫妻の長男です。そして二人は1959年に結婚し、彼女もローダー ファミリーのビジネスに加わることになりました。以来、彼女は、新製品開発ディレクターやマーケティング ディレクターなど、数多くの責務をこなしてきました。彼女が最初の頃に任された仕事の一つ、エステ ローダー ブランドの研修プログラムを企画するという仕事では、教師としての経験が役立ち、素晴らしい才能を発揮しました。また彼女は、メイクアップのカラースタンダードを築き上げ、自分自身が製品を店頭で販売するなど、公の場に出る機会を増やしていきました。

ファッショントレンドや、目紛しく変化する消費者ニーズに対するミセス エヴリン ローダーの類まれな洞察力は、革新的なスキンケアやメイクアップ、フラグランス製品の開発の原動力となっていたのです。研修や製品開発に彼女が注ぎ込んできたものは、今もなおエステ ローダー カンパニーズの中に息づき、エステ ローダーを最高の美のグローバルリーダーとして君臨させています。1968年、エステ ローダーが、クリニックのビジネスを開始したとき、そのブランド名を思いついたのもミセス エヴリン ローダーでした。そして、彼女が同ブランドの初代研修ディレクターに就任後、今やおなじみとなった、あの白衣のようなユニフォームを初めて着用したのも彼女でした。

1989年、ミセス エヴリン ローダーは、シニア コーポレート ヴァイス プレジデント兼フラグランス国際開発責任者に就任します。彼女は、花やガーデニングをこよなく愛し、それらから受けたインスピレーションにより新しいフラグランスを開発していたといいます。もっとも人気のある『ビューティフル』『プレジャーズ』をはじめ、世界的に大成功をしたエステ ローダーのフラグランスの開発の、大半は彼女が率っていました。

ミセス エヴリン ローダーは、ニューヨークの慈善活動においてもリーダーを務めていました。彼女は、『メモリアル・スローン・ケタリング癌センター』の民生委員に名を連ねるほか、セントラルパーク保全活動の役員会およびエヴリン&レナード・ローダー基金の役員にも名を連ねていました。さらに、ミセス エヴリン ローダーの慈愛に満ちたやさしさにあふれたチャリティー活動は数限りなくあり、NPOをはじめ多くの団体が、社会福祉、教育およびスラム地区の学校、環境、女性関連のテーマ、芸術などの多方面で恩恵を受けています。

ミセス エヴリン ローダーの名前がもっとも広く世間に知られるようになったのは、恐らく、女性の健康に対する意識を喚起した彼女の業績でしょう。彼女は、乳がんを患った個人的な経験に基づく情熱から、今や乳がん研究の国際的シンボルとして有名になった『ピンクリボン』を1992年に共同創設し、エステ ローダー カンパニーズの乳がん研究キャンペーン「Breast Cancer Awareness(BCA)」([www.bcacampaign.com](http://www.bcacampaign.com))を立ち上げました。BCA キャンペーンは毎年、世界中のエステ ローダーの各ブランド、従業員、販売店パートナーから資金を集め、乳がん研究を支援しています。ミセス エヴリン ローダーは、さらに「乳がん研究基金(Breast Cancer Research Foundation(BCRF))」を設立し、世界中の医

学、科学分野の乳がん研究者を資金面で支えています。BCRF([www.bcrfcure.org](http://www.bcrfcure.org))は、これまでに3億5000万ドル以上を調達し、全世界で186人の研究者を支援しています。

「毎年10月になると、驚くべきことに、世界のエステー ローダー従業員が、BCAキャンペーンを積極的に展開しています。エヴリンのミッションが、私たちのミッションになったのです。彼女の情熱は、すなわち私たちの情熱です。彼女は、私たちの情熱を喚起してくれました。私たちは、彼女のビジョンを胸に、これからも前進していきます」と、エステー ローダーのCEO ファブリツィオ フリーダは述べました。

ミセス エヴリン ローダーは、写真にも情熱を燃やしており、彼女の作品は、多くの公共および個人のコレクションに収められています。代表的なところでは、ニューヨークのホイットニー美術館やブルックリン美術館、ヒューストン美術館などがあり、そのほか米国内の有名な医療機関にも多く所蔵されています。2002年10月には、彼女の2冊目の写真集となる『An Eye for Beauty』をハリー・エイブラムス社から出版しました。2011年9月には、彼女の作品が、ロンドンのガゴシアンギャラリーに展示され、2006年には第三弾となる作品集『In Great Taste: Fresh, Simple, Recipes for Eating and Living Well』が出版されています。

ビジョンにあふれた真のリーダーで、親愛なる友人のミセス エヴリン ローダーは、エステー ローダー カンパニーズの誰の胸からも永遠に消え去ることはないでしょう。

エステー ローダー カンパニーズは、高級スキンケア、メイクアップ、フラグランスおよびヘアケア製品において世界をリードしています。世界150カ国以上の国と地域で、エステー ローダー、アラミス、クリニーク、プリスクリプティブ、ラボ シリーズ、オリジンズ、マック、ボビー ブラウン、トミー ヒルフィガー、キトン、ドゥ・ラ・メール、ダナ キャラン、アヴェダ、ジョー マローン、バンプルアンドバンプル、ダルファン、マイケル コース、アメリカン ビューティー、フラート!、グッドスキン™ ラボ、グラスルーツ™ リサーチ ラボ、ショーン・ジョン、ミッソーニ、トム・フォード、コーチ、オジョン、スマッシュボックス、エルメネジルドゼニアのブランド名で販売されています。

お問い合わせ先: エステー ローダー コミュニケーションズ部 鈴木ハル子、田中蘭子、田中絵弥生 03-5251-3333